

ここまでわかった！古津八幡山遺跡 —最新の調査成果を交えて—

新潟市歴史文化課 文化財センター 相田泰臣

- 
1. はじめに
 2. 古津八幡山遺跡の概要
 3. 最近の調査成果を交えて見た古津八幡山遺跡

古津八幡山遺跡遠景(北東から)

1. はじめに

これまでの発掘調査

- 遺跡が最初に発見された1987(昭和62年)の第1次発掘調査から、これまで25回の発掘調査を実施。

平成29年度から調査が不十分な場所について再び発掘調査を行っている。

⇒古津八幡山遺跡で最大の大型竪穴建物発見

⇒古津八幡山遺跡で最大の方形周溝墓発見

古津八幡山遺跡の保存

⇒ 地元をはじめ、全国的な保存運動がおこる



講演会(甘粕健氏・坂井秀弥氏 1988年)



発掘調査現地説明会(1988年)

- 1990(平成2)年、遺跡の主要部分が保存されることに決まる。

史跡の指定

- 2005 (平成17)年 7月14日
「古津八幡山遺跡」 として国の史跡
に指定
- 2011(平成23)年 2月7日
古墳部分が追加指定される

以下の文化財の総称を記念物と呼ぶ。

1. 貝塚・古墳・都城跡・城跡旧宅などの遺跡で我が国にとって歴史上
または学術上価値の高いもの
2. 庭園・橋梁・峡谷・海浜・山岳などの名勝地で我が国にとって芸術上
または鑑賞上価値の高いもの
3. 動物・植物及び地質鉱物で我が国にとって学術上価値の高いもの

国はこれら記念物のうち、重要なものをその種類に従って「史跡」・「名勝」・「天然記念物」に指定し、保護を図っている。



葛蒲塚古墳



旧新潟税関



新津油田金津鉱場跡

史跡とは

新潟市内の史跡

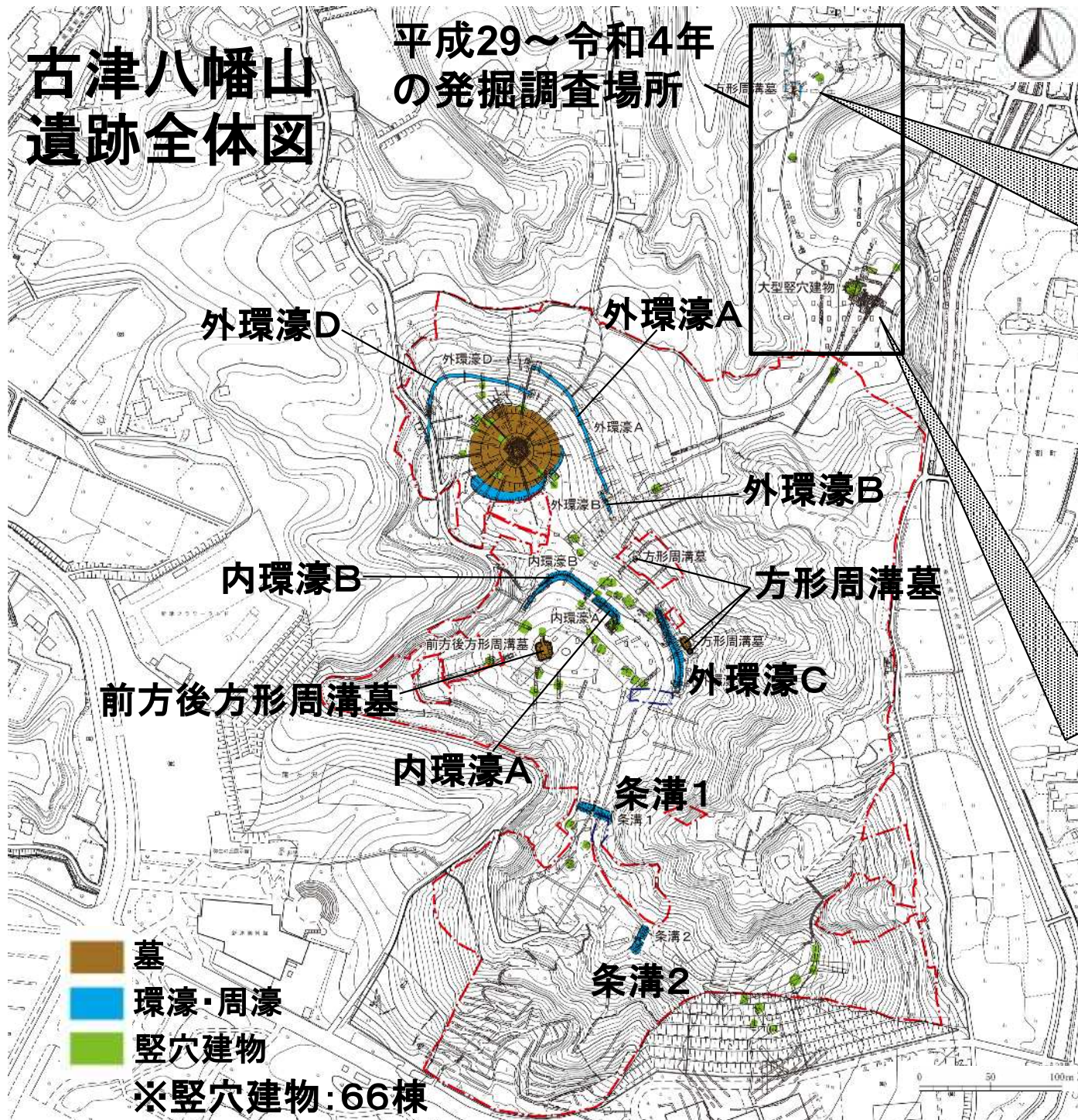
- 西蒲区 菖蒲塚古墳（昭和5年 国指定）
日本海側最北の前方後円墳
- 中央区 旧新潟税関（昭和44年 国指定）
幕末～明治初期の開港五港の中で唯一現存する開港当時の運上所（税関）
- 秋葉区 古津八幡山遺跡（平成17年 国指定）
日本海側最北域の高地性環濠集落。古墳時代には県内最大の古津八幡山古墳が造られる。
- 秋葉区 新津油田金津鋳場跡（平成30年 国指定）
 - 西区 的場遺跡（県指定）
 - 西区 緒立遺跡（県指定）



古津八幡山遺跡遠景(北東から)

古津八幡山遺跡全体図

平成29～令和4年の発掘調査場所



卑弥呼の時代に触れ



新潟市秋葉区の国史跡と、従来の約4倍の面積がある古津八幡山遺跡から、遺跡初の掘立柱建物が発見された。いずれも弥

古津八幡山遺跡(新潟市秋葉区)

県内

最大級の大型竪穴住居

遺跡初の掘立柱建物確認

今年、県内の考古学は、弥生時代と古墳時代を中心として成果が目立った。新潟市秋葉区古津八幡山遺跡と、上越市の釜蓋遺跡から、弥生時代の掘立柱建物跡と大型の竪穴建物跡が発見

あふれる歴



①原遺跡(新潟市秋葉区、縄ミナモト土器がままとて出土。土器に「あふれる歴」の文字が刻まれた可能性)。②古津八幡山遺跡(新潟市秋葉区、弥生、弥生、土器、石器、土器の遺跡が出土)。③上野遺跡(村上市、縄文)。④釜蓋遺跡(上越市、弥生)。⑤釜蓋遺跡(上越市、弥生)。⑥釜蓋遺跡(上越市、弥生)。⑦釜蓋遺跡(上越市、弥生)。⑧釜蓋遺跡(上越市、弥生)。⑨釜蓋遺跡(上越市、弥生)。

新潟大教授 橋本 博文



拠点的集落の構造、明らかに

県内は今年、開拓に伴う掘立柱建物跡と大形の竪穴建物跡が、新潟市秋葉区古津八幡山遺跡から見つかった。弥生時代の中心となる集落の構造が明らかになった。弥生時代の中心となる集落の構造が明らかになった。弥生時代の中心となる集落の構造が明らかになった。

生時代後期、末期のものを、掘立柱建物は倉庫として使われていた可能性が高い。大形竪穴住居は弥生時代のものであると見えてきた。南魚沼市の六日町藤塚遺跡からは、県内では珍しい古墳時代の周堤を伴った竪穴建物跡が出土した。県によると、今年は県内で12月までに本発掘調査が26件、試掘確認調査が139件あった。今年、成果を新潟大文学部の橋本博文教授に聞いた。

県内最大級の方形周溝墓

(古津八幡山遺跡・新潟秋葉区)

新潟市秋葉区の秋葉丘陵にある古津八幡山遺跡では、県内最大級の方形周溝墓が発見された。長方形に区画するように溝が掘られ、大きさは長い辺で10²。3人分の墓の穴が掘られた複数埋葬施設で、東日本では珍しい事例だった。有力な人物が埋葬され、その家族の墓である可能性もある。

同遺跡は弥生時代後期の高地性環濠集落。方形周溝墓は、遺跡中心部から北東へ約400²の標高約25²の中腹域で見つかった。溝で区切られた長方形の短い辺の長さは、来年度以降に確定させる。墓の穴は大中小と思われる三つ。最大の穴だけ大きさが分かっており、長さ3・4²、幅

3人分の複数埋葬施設



古津八幡山遺跡で見つかった方形周溝墓。白い線が溝、黒い線が墓の穴の部分を表わす(新潟市文化財センター提供)

1・45²。内部に木棺と見られる板材が置かれていたことも確認した。複数埋葬施設は、西日本で比較的多く、北陸でもい

くつかあるという。市文化財センターの相田泰臣学芸員は「墓の具体的な形状が分かれば、どの地域とネットワークがあったか追えるのではないか」と話した。墓の全体像を解明するため、来年度も調査を続ける。

1. 古津八幡山遺跡の概要

古津八幡山 遺跡年表

【H29～R4年の調査】

竪穴建物5棟
方形周溝墓2基
大型竪穴建物1棟

	15000	きゆうせつきじだい 旧石器時代	しない 市内の最古の石器が残される	
		じょうもんじだい 縄文時代	そうそうき 草創期	
			そうき 早期	
			ぜんき 前期	
			ちゅうき 中期	ひがしがわ たに 東側の谷でクリやトチの木の手入れがされる
			こうき 後期	ほくとう ち く たてあなじゅうきよ 北東地区で竪穴住居がえられる
			ばんき 晩期	
	800	やよいじだい 弥生時代	そうき 早期	
			ぜんき 前期	
			ちゅうき 中期	
			こうき 後期	おか うえ ほり ほ むら 丘の上に濠が掘られ、村がえられる
			しゅうまつき 終末期	しかく はか おさ ほうむ 四角い墓にムラ長が葬られる
			ぜんぼうこうほうがたしゅうこうぼ 前方後方形周溝墓がえられる	
	270	ぜんき 前期		
		こふんじだい 古墳時代	ちゅうき 中期	けんないさいだい かんばら おうぼ 県内最大の蒲原の王墓がえられる
			こうき 後期	
	645	あすかじだい 飛鳥時代		
	710	ならじだい 奈良時代	すみがま 炭窯で炭が焼かれ、製鉄炉で鉄がえられる	
	794	へいあんじだい 平安時代		
	1192	かまくらじだい 鎌倉時代		

きげんぜん
紀元前
きげんご
紀元後

古津八幡山遺跡の動向

時代	北陸南西部編年		古墳集成編年	新潟シンポジウム編年	古津八幡山遺跡			
弥生時代中期	小松 専光寺 戸水B				環濠	竪穴建物	掘立柱建物	墓
					—	—	—	—
弥生時代後期	1群	V-1群	猫橋式	1期	集落の出現 外環濠の掘削	SI802・SI821 SI0603 SI03S03 SI03S05 SI0602 SI728	掘立柱建物群？	方形周溝墓 SX1005 SX1006 SX1004 SZ743 (大型方形周溝墓) SZ822
		V-2群						
		V-3群						
	2群	2-1群	法仏式	2期	環濠が上層まで埋没 ⇒一部再掘削？ 内環濠掘削？	SI03S06 SI03N03		
		2-2群						
	早期(古墳時代終末)	3群		月影式	3期	高地性集落の廃絶、平地での集落の出現		
4群		白江式	4期					
5群			5期					
6群			6期					
古墳時代前期	7群		古府クルビ式	1期	7期			↓古津八幡山古墳 (古墳中期)
	8群		高島式	2期	8期			
	9群			3期	9期			
	10群			4期	10期			

※赤字は平成29年以降の調査で見つかった遺構

① 弥生時代
高地性環濠集落

越後平野における弥生時代の 高地性集落と古墳



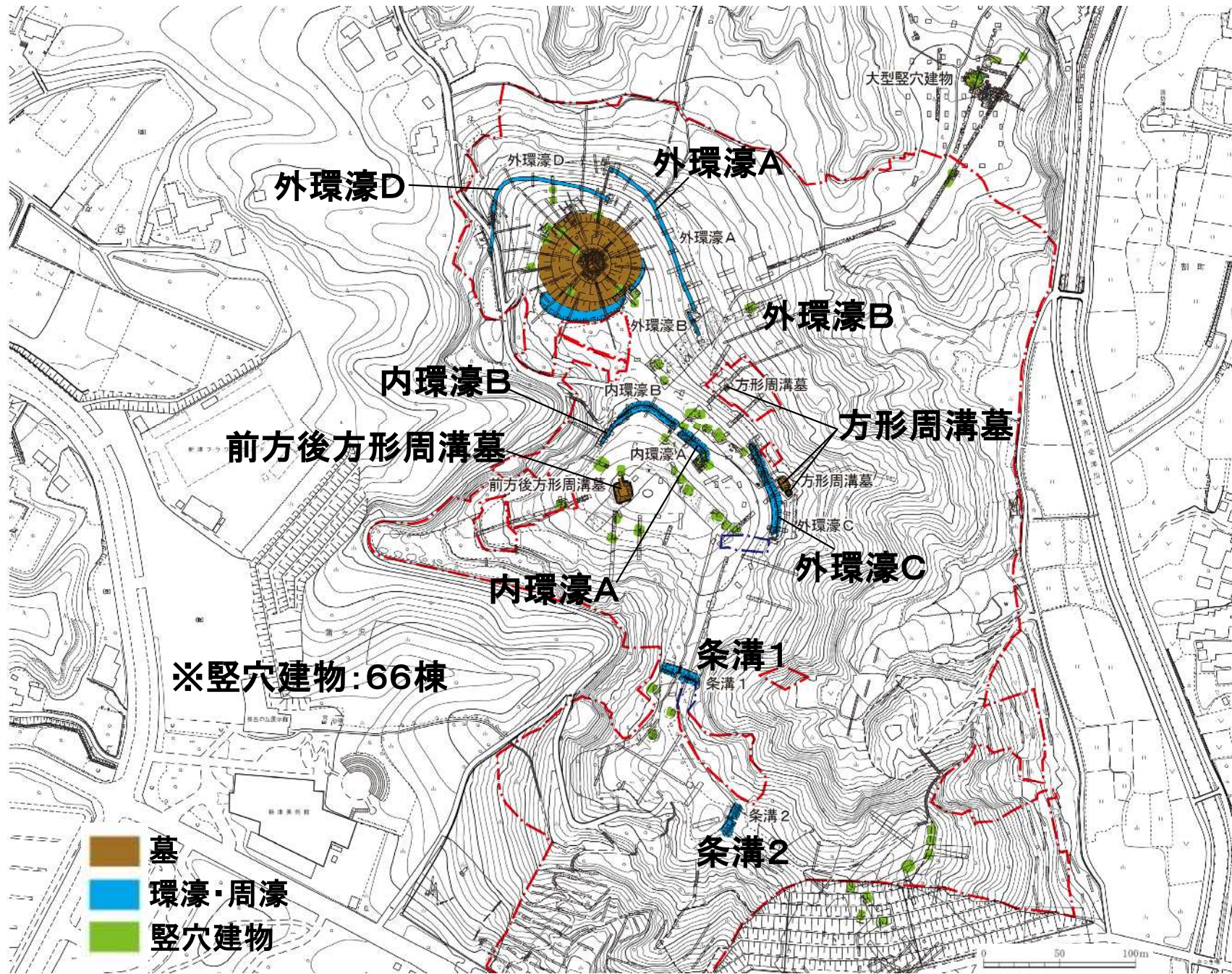
高地性集落の分布

弥生時代中期後半から
後期初めの高地性集落

弥生時代後期後半から
終末の高地性集落

山元遺跡
滝ノ前遺跡
古津八幡山遺跡

寺沢薫2000『日本の歴史第2巻 王権誕生』講談社
原図をもとに加工



古津八幡山遺跡遺構平面図



条溝



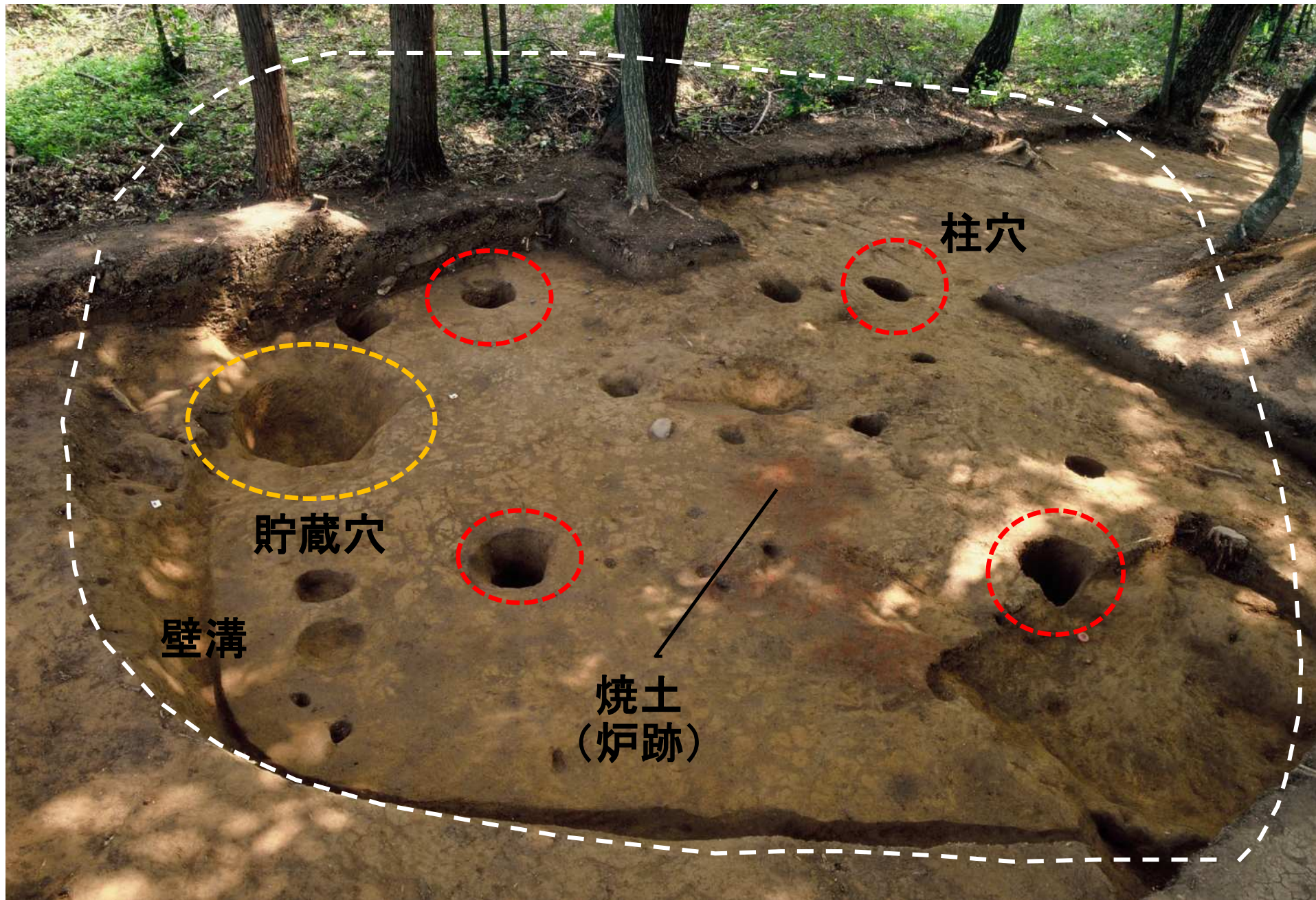
環濠



環濠



環濠(復元整備後)



豎穴住居



竪穴住居(復元整備後)



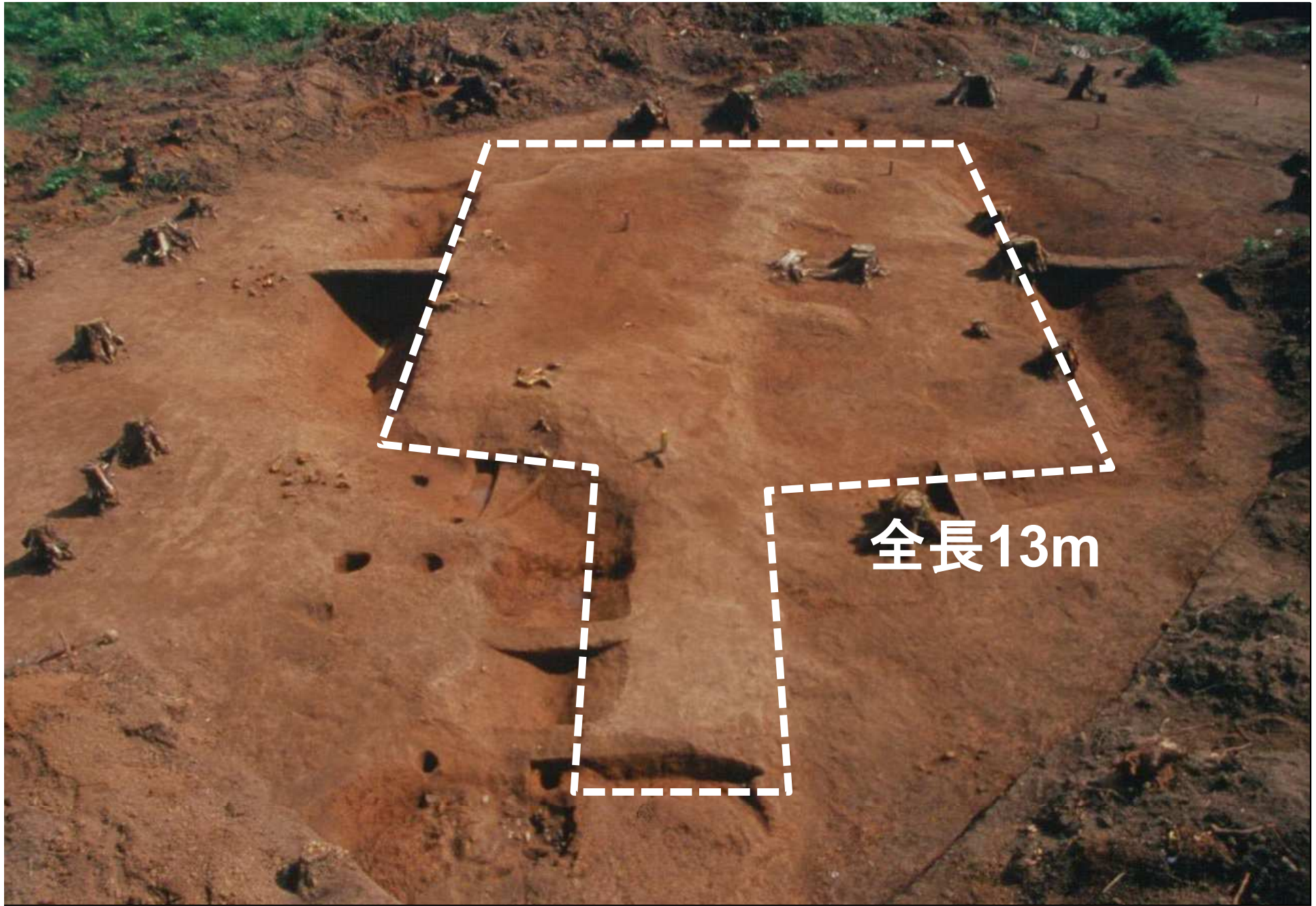
方形周溝墓



方形周溝墓埋葬部



方形周溝墓(復元整備後)



前方後方形周溝墓



前方後方形周溝墓(復元整備後)

古津八幡山遺跡出土土器の系統別イメージ



吹上遺跡(上越市)



古津八幡山遺跡



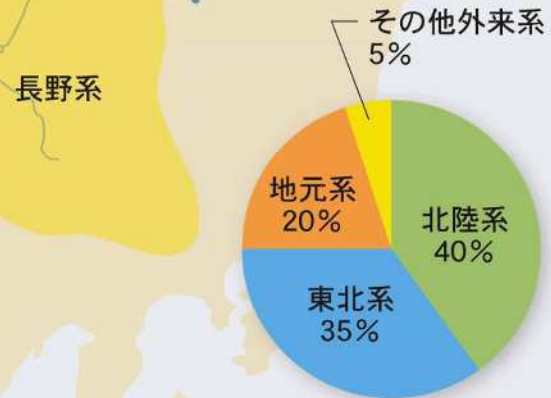
天王山遺跡(白河市)



篠ノ井遺跡群(長野市)

土器の特徴

東北系	天王山式	縄文とヘラで描いた文様
北陸系	猫橋式・法仏式	薄板で土器の表面をなでる(ハケ目)
地元系	八幡山式	東北的な器形に北陸的なハケ目による整形手法
その他外来系	長野系(箱清水式)	櫛描文 赤い土器



北陸系土器



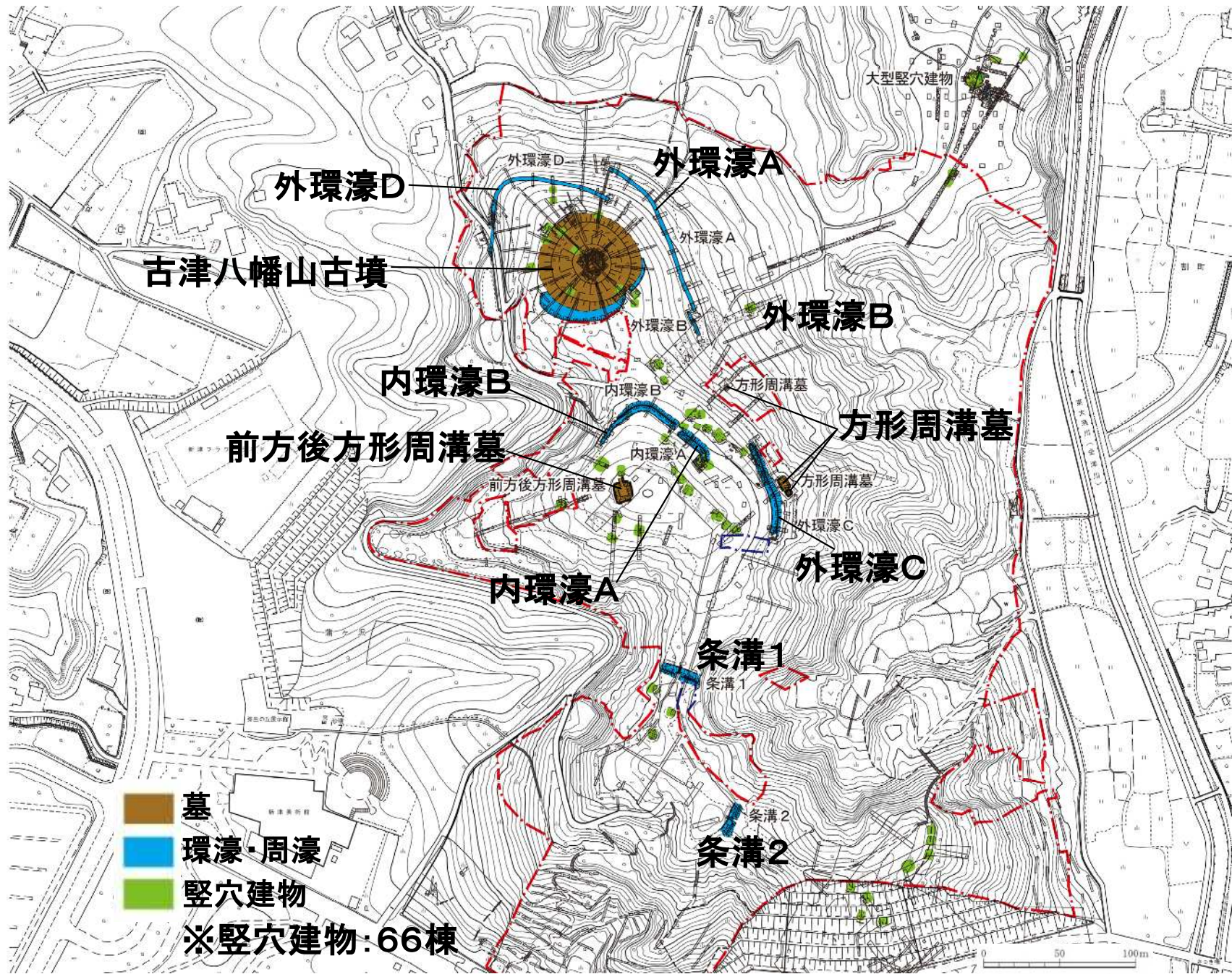
東北系土器



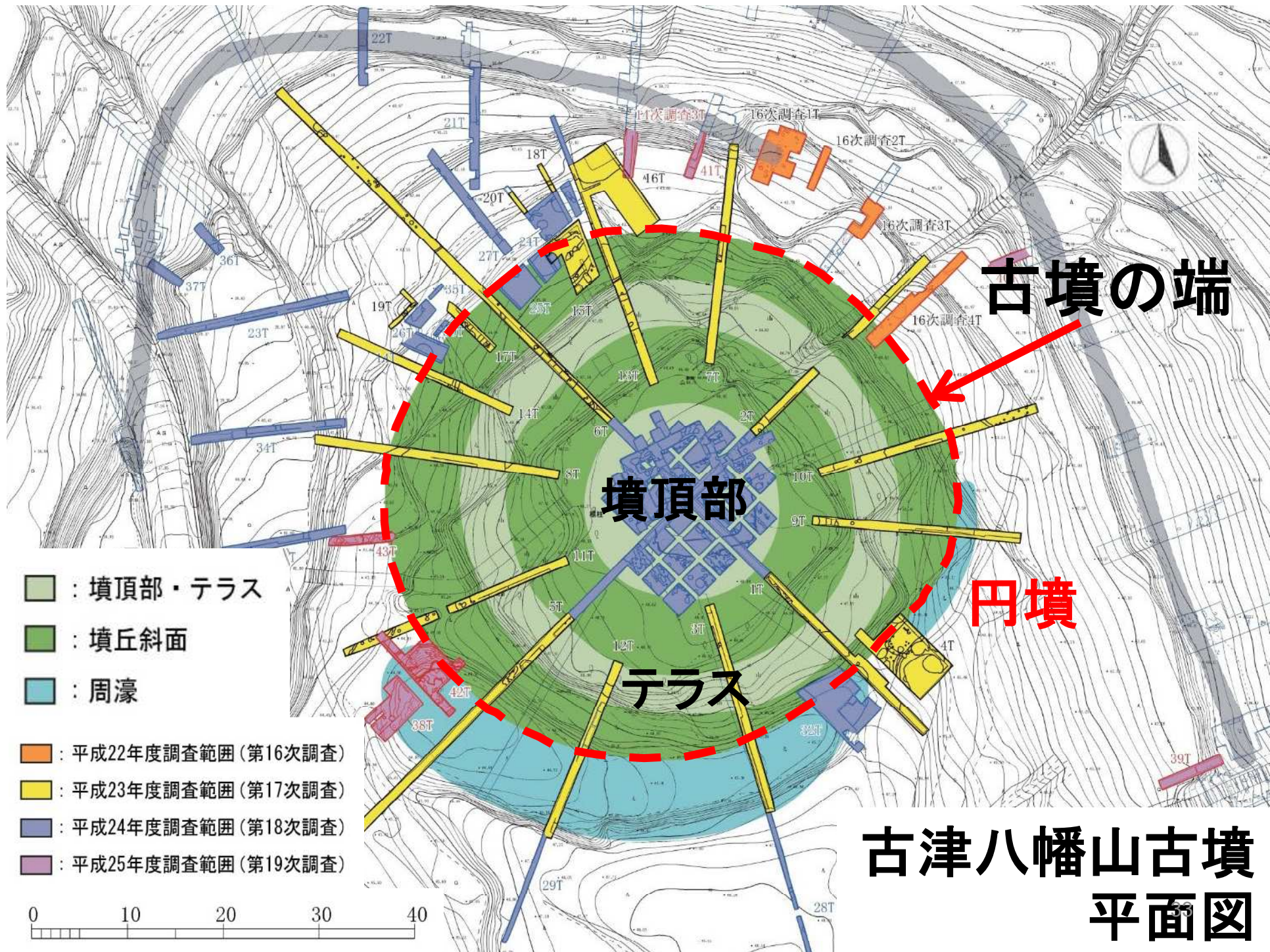
地元系土器
(折衷土器)

古津八幡山遺跡出土土器

②古墳時代
古津八幡山古墳



古津八幡山遺跡遺構平面図



古墳の端

墳頂部

円墳

テラス

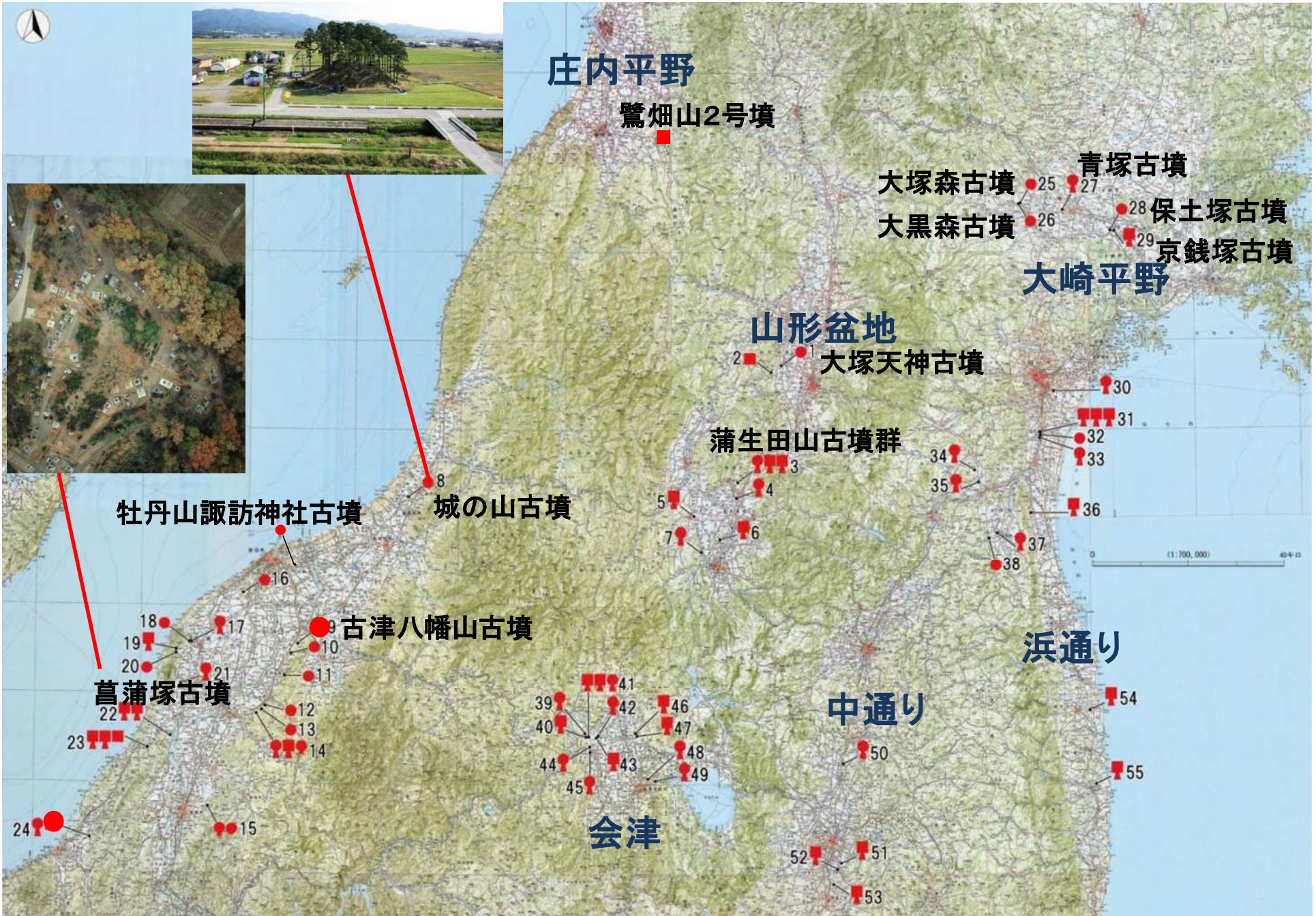
古津八幡山古墳
平面図

- : 墳頂部・テラス
- : 墳丘斜面
- : 周濠
- : 平成22年度調査範囲 (第16次調査)
- : 平成23年度調査範囲 (第17次調査)
- : 平成24年度調査範囲 (第18次調査)
- : 平成25年度調査範囲 (第19次調査)





整備後の古津八幡山古墳(北東から)



東北南部・新潟県北部の古墳時代前期から中期初頭前後の主な古墳



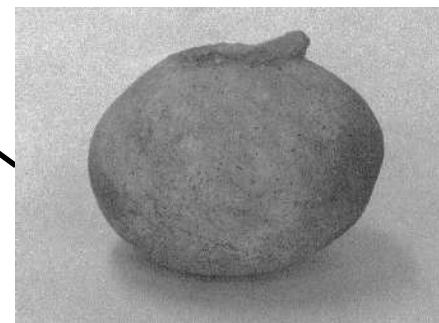
整備後の古津八幡山遺跡(南西から)



舟戸遺跡(古墳中期)



森田遺跡
(古墳前期)



高矢C遺跡
(古墳中期)

古津八幡山遺跡周辺の遺跡

舟戸遺跡 平面図



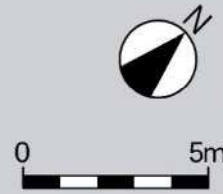
竪穴住居の柱



杭

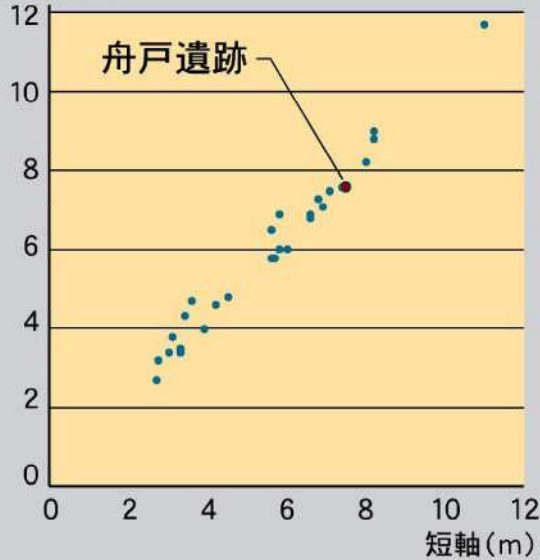
舟戸遺跡の平面図

- 建物
- 柱穴
- 溝
- 杭列



新潟県における古墳時代中・後期の竪穴住居の規模

長軸(m)





舟戸遺跡 杭列



舟戸遺跡 竪穴住居

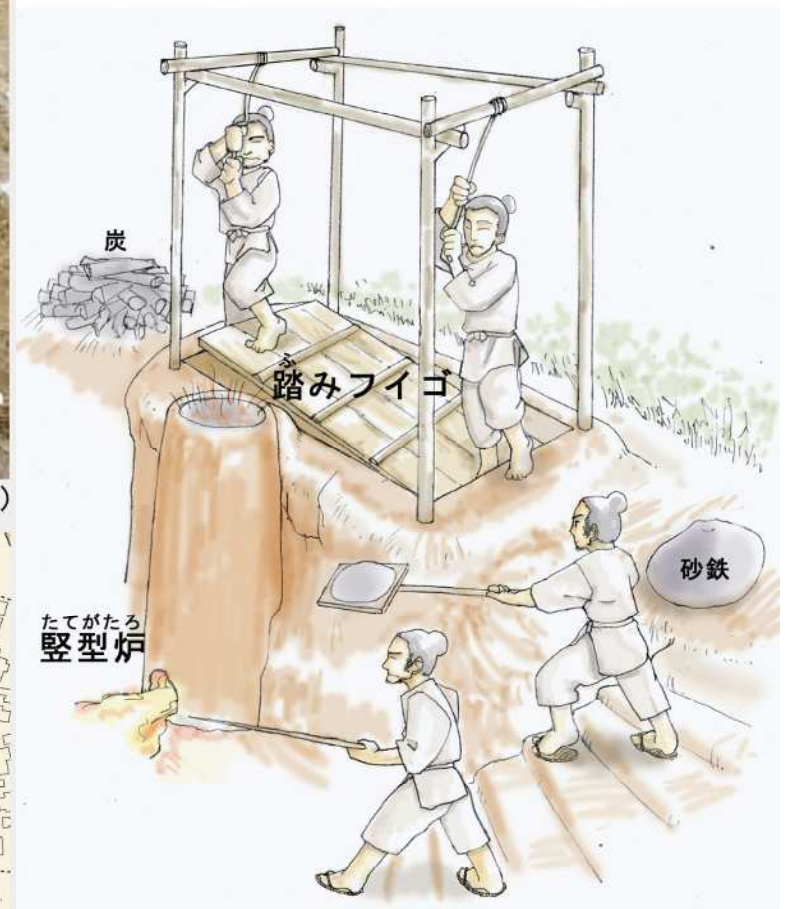
③奈良・平安時代
金津丘陵製鉄遺跡群



製鉄炉と踏みフイゴ(大入遺跡C地点)



大入遺跡C地点位置図



鉄づくりの様子 (想像図)